

マリンビジョン女性交流会議 かわら版



マリンビジョン21
MARINE VISION 21

第15号 2021年11月発行



マリンビジョン女性交流会議かわら版では、交流会議の活動内容、地域での活動内容、新しい情報などをお伝えします。皆さんで知恵を出し合って、活動の輪を広げていきましょう！

令和3年度 MV女性交流会議が開催されました！

開催概要

【出席者】

中央大学研究開発機構教授 片石温美委員長をはじめ、札幌大谷大学社会学部特任教授 山下成治委員、北海学園大学経済学部教授 濱田武士委員、10名の女性委員と、各地域のオブザーバー15名が出席しました。

【概要】

今回は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、WEB会議形式での開催となりました。

会議の冒頭、主催者を代表して北海道開発局農業水産部の細井部長よりご挨拶いただき、マリンビジョン女性交流会議はこれまで北海道マリンビジョン21の具現化を図るため、女性の視点から地域マリンビジョンの強化や充実化に向けて様々な議論が重ねられ、漁村地域の活性化に寄与してきたこと、また、地域の特色や女性ならではの視点から活発な意見交換が行われることにより、更なる交流や新たな取り組みが展開されることに期待を寄せているとお話いただきました。

会議は講演と討議の2部構成で行い、前半では斜里町水産林務課 森高志課長と有限会社蝦名漁業部 蝦名桃子専務取締役よりご講演いただきました。後半は各地域の活動状況について各委員から報告後、コロナ禍を踏まえた魚食普及・食育などについて意見交換しました。

以下に、会議の内容を一部抜粋してご紹介します。

会議名：令和3年度マリンビジョン女性交流会議
日 時：令和3年10月25日(月) 13:30~16:30
開催形式：WEB会議形式

◆委員名簿◆

	氏名	所属・役職
委員長	片石 温美	中央大学 研究開発機構 教授(客員)
委員	太田 美香	遠別漁業協同組合 女性部長
委員	米森 みゆき	北るもい漁業協同組合 苫前支所 女性部長
委員	松村 江身子	福島吉岡漁業協同組合 吉岡地区女性部長
委員	北川 洋子	室蘭漁業協同組合 女性部長
委員	大友 勇子	いぶり中央漁業協同組合 虎杖浜地区女性部長
委員	高野 恵里子	ひだか漁業協同組合 三石女性部 部長
委員	川村 真弓	大津漁業協同組合 女性部長
委員	堀 陽子	厚岸漁業協同組合 女性部長
委員	山形 由紀子	落石漁業協同組合 女性部長
委員	櫻田 厚子	歯舞漁業協同組合 女性部長
委員	鹿又 眞美子	羅臼漁業協同組合 女性部長
委員	畠山 美佐	ウトロ漁業協同組合 女性部長
委員	川口 睦子	常呂漁業協同組合 女性部長
委員	佐野 美香	雄武漁業協同組合 女性部長
委員	山下 成治	札幌大谷大学社会学部 地域社会学科 特任教授
委員	濱田 武士	北海学園大学経済学部 地域経済学科 教授
委員	渡邊 浩二	北海道開発局農業水産部 水産課長



講演① 「ウトロ地域マリンビジョンの取組について・『鮭、日本一のまち知床・斜里町』をPRするための漁業・観光が融合した取組」

斜里町水産林務課 森高志課長より「ウトロ地域マリンビジョンの取組について・『鮭、日本一のまち 知床・斜里町』をPRするための漁業・観光が融合した取組」と題しご講演いただきました。

◇ 事業概要 ◇

「鮭、日本一のまち 知床・斜里町」をPRするため、「サケ漁獲量日本一」と「知床世界遺産」という漁業と観光の視点を繋げて「鮭、日本一のまち」を観光資源化することが目的。

◇ これまでの取り組み ◇

2018年度『知ってもらう』→2019年度『見てもらう』→2020年度『食べてもらう』という三本柱に段階を踏んで取り組んできた。

『知ってもらう』では、観光のブランディングで生まれた「知床トコさん」をシンボルマークとして採用し、ポスターやパンフレット、バッジなどを作成してPRに活用したほか、人工地盤や漁港周辺に看板を設置した。

『見てもらう』では、2016年に完成したウトロ漁港人工地盤の愛称を公募し、「ウトロ鮭テラス」に決定。案内看板の設置や、観光協会によるモニターツアーを実施し、観光客のニーズ把握に努めた。

『食べてもらう』では、ウトロ鮭テラスを観光施設としてさらに発信し、秋鮭漁の観光資源化を目指した。ホームページに鮭の水揚げ情報やイベント情報を公開したり、観光・漁業関係者によるウトロ鮭テラス大掃除や観光ツアーガイド対象の勉強会を実施してメディアに取り上げてもらうなど、ウトロ鮭テラスの認知度アップを目指した。その上で「知床の鮭」のブランド力強化のために、鮭の供給ルートの構築や飲食店・ホテル・婦人部食堂・直売店でのPRを進めた。鮭の旬の時期には、「知床鮭ウィーク」をウトロの大型ホテル4軒で実施し、各種鮭料理の提供や「鮭トーク!!」というトークイベントを開催した。

◇ 今後の展開について ◇

観光客の中から「知床の鮭」という呼び方が多く聞かれるため、「知床の鮭」を定着させていくことが今後のブランド化に繋がると考えている。知床の知名度は全国区なので、新しい名前を付けるより地名+産物の組合せてPRしていきたい。

今後は「知る」「見る」「食べる」という三本柱に『買ってもらう』『薦めてもらう』という視点を加えて、知床の鮭のブランド化を進めていきたい。このことが漁業者にとっても観光関係者にとってもプラスになると信じている。



斜里町 森課長



講演② 「コロナ禍を踏まえた漁獲物の販売について」

続いて有限会社蝦名漁業部 蝦名桃子専務取締役より、「コロナ禍を踏まえた漁獲物の販売について」と題し、片石委員長との質疑応答形式にてお話しいただきました。



(有) 蝦名漁業部 蝦名専務取締役

――自己紹介と事業の内容、そしてエビ加工を始めたきっかけを教えてください。

8年前に有限会社蝦名漁業部を立ち上げました。夫は北るもい漁協所属のエビかご漁を営んでおり、自船で獲ったエビを漁協から買い戻し、エビ酒蒸しなどの加工、販売、卸しをしています。

お嫁に来た20年前は乗組員の給料が良かったが、10年経った頃から水揚げが良くてもだんだん利益が薄くなり、このままの漁業でいいのかと先の不安を感じるようになりました。船に乗れない自分が乗組員のためにできることは、羽幌のエビの美味しさや価値を知り、それをみんなに教えること。羽幌のエビの価値を上げて、どんどん下がっている給料を自分の力で何とかできないか、と考えました。羽幌のエビの良さを伝えるために商品にして、たくさん売れたら乗組員にボーナスをあげようと思ったのが最初です。

――スタートする時に三つの目標を掲げたと聞きました。

はい。一つ目は従業員の賃金アップ、二つ目は羽幌のエビをブランド化してエビを浜値から上げたい、三つ目は空港で販売してどんどん外に持って行ってもらう、その三つの夢を持っていました。

――商品づくりにおいて消費者とどう向き合っていますか？

いずれは、こんなに美味しいエビを食べられるならこの町に行ってみたくか、獲れたてを生で食べてみたい、と思ってもらえるような商品を作らなければいけないと思っています。味を壊さない、素材の味を生かしつつお客様に喜んでもらえる商品づくりをしています。

――商品のエビオイルをカルディに出していて注文が殺到しているそうですね。

カルディから依頼があり、自分で商品開発しました。発売から4年経ち、だんだん数量が伸びてテレビでも紹介されるようになりました。今は上限の1日300本を毎日作っていて、大変ですが嬉しいことです。



蝦名漁業部 直営店

――コロナ禍で水産業界や漁業は大変な状況ですが、冒頭で掲げた三つの目標は今どうなっていますか？

従業員にここ 2 年ボーナスを出すことができ、エビの浜値も明らかに上がったものがあるので、一つ目と二つ目は達成できたと思っています。

三つ目の空港で販売したいというのは、最初の二年は自分たちから商談に出向き仕事を作っていて、物を売るのはいまだ簡単なことではないと感じていましたが、三年目からは信頼されるようになり、売りに行かずとも売り先ができるようになりました。つい先日、全日空の空港のショップでの販売の話も来て、三つ目の夢にも近づいていると思いました。漁師でも百貨店で売れる商品を作りたいので、一切妥協せずいいものを作りたいと思います。



片石委員長

――これからチャレンジしたいことは？

SDGsに関わっていけたらと思っています。カルディの商品が売れるたびに、一週間で 100 キロのエビの頭を生ゴミとして捨てていましたが、もったいないので何かできないかとずっと考えていました。そこで自分でペースト化して食品メーカーに相談し、ペーストを卸すことが決まりました。ペースト化する機械を購入する必要があり悩みましたが、ゴミも減るし今まで捨てていたものがお金になるなら買うべきだと思い、投資を決断しました。



――加工の後に出てくるものはどの地域にも共通してあるものなので、参考になりますね。蝦名さん、ありがとうございます。

各地域の活動報告／コロナ禍での魚食・食育について意見交換

後半は「コロナ禍を踏まえた魚食・食育について」をテーマに、各地域の女性部の魚食普及活動についてご報告いただきました。インターネットを活用した情報発信の強化や、コロナ禍で拡大した巣ごもり需要への対応など、今後の活動のヒントとなるご意見もいただきました。



太田委員 (遠別)

例年ヒラメオーナーや小学生対象の出前授業などのイベントがあるが、昨年と今年はコロナ禍の為中止。今後は小学生対象の出前授業で魚食普及に努めたい。(太田委員)



北川委員 (室蘭)

高校の料理教室を開催したほか、漁港清掃に女性部として参加した。コロナ禍で例年女性部として活動していることはほとんど中止になった。(北川委員)



大友委員
(登別・白老(虎杖浜))

高校での食育授業を実施した。また、ドライブスルー販売やショッピングセンターでの販売を実施したが、コロナ禍でお客様の入りは少なかった。(大友委員)



川村委員 (大津)

コロナ禍で昨年と今年は食育事業をできていないが、サケの飯寿司販売と山漬け製造販売は引き続き行っている。他はコロナが落ち着いたら形を変えて活動していきたい。(川村委員)



堀委員 (厚岸)

昨年から引き続きほとんど活動が行われなかった。さらに 9 月以降赤潮の被害もあるので、コロナが終息したら厚岸漁協、厚岸町等を含めて女性部も協力しながら今後の活動を相談したい。(堀委員)

コロナ禍で食育活動ができず、三石漁港の清掃だけは実施できた。(高野委員)



高野委員 (三石)

コロナ禍で女性部の活動は自粛中だが、今後漬物教室は実施予定。コロナが終息したらすぐに実施できるよう、昆布料理発表会の準備やレシピの考案はしている。新たに地元産牡蠣を使用した料理を検討している。今は厚岸地域同様、赤潮の被害が心配。(櫻田委員)



櫻田委員
(根室(歯舞))

毎年 9 月にサケ定置網の網起こし体験を小学生対象に実施しているが、コロナで網起こし体験後のサケ調理は中止となった。その代わりに知床財団の講師による「木育」の授業を実施した。(畠山委員)



畠山委員 (ウトロ)

令和 2 年、3 年の地元中学校や旭川大学短期大学部への調理講習などの魚食普及活動、漁港清掃、植樹は中止となった。北見市内小中学校給食へホタテを提供したが、今後は以前のように地元中学校での調理実習を継続して実施したい。(川口委員)



川口委員 (サロマ湖)

コロナ前は地元のお祭り等に参加していたが全て中止になったため、漁港清掃くらいしか活動できなかった。コロナ終息後は以前のように地元のお祭り等に参加予定。(佐野委員)



佐野委員 (雄武)



山下委員

コロナ禍でおひとり様キャンパーが増えていて、彼らはYouTube やインターネットで情報を得ている。地域の他団体や外側の人と繋がることで新たな需要が見つかるのでは。(山下委員)



濱田委員

漁協さんや行政の方で Wi-Fi 設備を整備して、浜から気軽に情報発信できるようにしてほしい。コロナ禍の巣ごもり需要で魚食が変化し、家庭内テイクアウトが増えている。コロナ限定ではなく今後もこの傾向は続くと見られているので、家の中で手軽に食べられる魚料理を開発してみてもいいのでは。(濱田委員)



片石委員長

YouTube 動画は気軽に作って自分たちで配信もできるので、取り組んでみてもいいのでは。(片石委員長)

工場の製品は、大きなパックから夫婦や一人暮らしでも一回か二回で消費し切れるような少量パックに変化している。コロナ禍で、漁協はインターネットで色々な海産物をセット販売している。サンマの漁獲量は減っているが、少量にしたり若い人向けにバジルソース味など味のバリエーションを増やしたりして、工夫している。(堀委員【厚岸地域】)

漁協だけでなく農家も含めて、ちゃんちゃん焼き用にサケと玉ねぎやお味噌をつけて、届いてすぐに食べられるようなセットがあれば売れるのではと思う。(川口委員【サロマ湖】)

主催者より

コロナ禍で活動がうまくいかないという声が沢山の地域から聞かれましたが、一方でコロナ禍の生活に対応して少量パックで販売するなど、地域での新たな試みのお話も出ました。インターネットの活用など、コロナ禍を踏まえた対応が引き続き必要になると思います。今後も女性ならではの議論・視点を会議を通じて紹介していただき、全道に情報共有することで、北海道の水産業や漁村地域の振興に寄与するものと思っています。日ごろの活動を通じて漁港整備の面でもご要望等があれば、引き続きご意見をお寄せいただきたいと思います。(渡邊委員)



渡邊委員



細井部長

初めてこの会議に参加し、大変勉強になりました。一つお願いしたいのは、コロナ禍で子供たちを対象とした行事が中止になっています。子供たちにとって魚を捌くことは貴重な体験であり、今はご家庭でも魚を捌くお母さんが少ないため、非常にインパクトのある行事だと思っています。コロナ禍の2年は、子供たちからすると貴重な2年です。抜けてしまった世代にあたる子供たちを対象に、活動が再開した暁にはその救済をしていただけたといいかなと思いました。(細井部長)

<委員・オブザーバーの皆様へ>

会議開催にあたり多大なるご協力を賜り心より感謝申し上げます。

また、会議途中で通信状態が悪くご迷惑をお掛けしましたことを改めてお詫び申し上げます。

ご質問やご相談等がありましたら、下記の連絡先までご連絡ください。

連絡先



マリンビジョン女性交流会議事務局

〒060-8511 札幌市北区北8条西2丁目 北海道開発局農業水産部水産課

TEL: 011-709-2311 (内線5579) 漁港漁村係まで

FAX: 011-709-5026

E-mail: suisan01@mlit.go.jp